

## 2018年度定時総会 事前質問回答要旨

2018年度定時総会議案書につきまして、代議員各位から頂いた質問事項 70件について、回答を纏めましたので、宜しくご検討ください。

### 【第1号議案関連についての質問】

#### —会務概況関係—

##### 【1-1】

**質 問：**顕彰活動の充実について、著作賞の顕彰を実施しているのであれば、鉄道趣味および旅行誌出版業界にも更なる賛助会員を募るなどの働きかけを実施されてもよいのではないのでしょうか。 (三宅弘晃代議員)

**回 答：**島賞は、規程の第9条で応募資格を「正会員および家族会員、ならびに著作物の発行を業とする個人または団体であって、選考委員会が指定したもの」としているため、賛助会員でなくとも選考委員会が指名すれば応募する権利を得ることができます。ただ、運用上、賛助会員の出版社のみに応募依頼を行っていますので、ご指摘のように非賛助会員の出版社にも応募を募ったり、島賞受賞の機会として賛助会員となっていただくよう勧誘などしたいと思いません。

##### 【1-2】

**質 問：**賛助会員、関連業界、諸官庁、協会・団体等との交流・連携および活動の推進には、具体的にはどういったものがあるのでしょうか。鉄道文化財化活動の参画以外に最近の実績をお聞かせ下さい。

また、この中で海外との交流推進とあり、台湾ツアーを実施したとありますが、第4号議案にあります収支において、海外交流費「0」となっております。これは、個人参加型ツアーでの参加者個人の交流であり、海外との交流推進には当たらず、当会との関係性がないものと思われませんが、如何でしょうか。

それよりも、当会の現状の活動およびその運営に鑑みますと、海外との交流を推進する前にまず国内の交流推進に力点を置くべきと考えますが如何でしょうか。 (三宅弘晃代議員)

**回 答：**鉄道文化財化活動とほぼ同時期スタートした日本郵便の鉄道シリーズ切

手の発行（2018年度の第6集発行で終了）に伴う活動がありますが、それ以降新たな分野の活動はありません。但しすべての分野で活動は継続しています。海外交流費は、海外から来日する鉄道関係者等を当会が迎える際に支出する予算としています。台湾鉄道見学ツアーは、国内で企画される事業（見学行事）と同じ位置づけで実施しています。国内交流に力を注ぐべきとの件、具体的なターゲットをご教示いただければと存じます。

### 【1-3】

**質問：**2016年度以前かもしれませんが、ある支部行事で申込み多数のために抽選となり、支部会員のAさんは落選したのに、支部会員Bさんは非会員のCさん（支部も当会自体も未入会）同伴で参加していた…という不満をAさんから聞きました。「全国の会員を対象とした」という意味や公平性について、理事会に回答を求めるものではなく、支部運営に関わっている代議員の皆様のもご理解とご協力をお願いしたいと、思います。（深見夏好代議員）

**回答：**ご意見ありがとうございました。会員一人ひとりが立場の認識と自覚とをお願いいたします。

### 【1-4】

**質問①：**鉄道友の会の発展のためには、最低3000名の会員数が必須と会長が申し上げられていますが、運営計画案を見る限りでは、具体的な会員数の増強について触れられていないのは残念である。

昨今鉄道趣味の認知が高まる中、より具体的な施策が必要ではないか。

（現状でも会員数が減少しており、残念ながら危機感が感じられません）

（濱道輝章代議員）

**回答：**会員増加（維持）については常に意見交換しています。まずは退会防止があり、併せて新たな会員の開拓と考えています。このためには「会の魅力づくり」が必要と考えます。退会防止に関しては、会員にとっての魅力とは、現場等での見学行事に“数多く”参加できる及び充実した機関誌 RAILFAN を受領できることだと考えます。また新入会員を優先する等の企画を推進することも必要と思います。また、会が対外的・社会的に評価される活動を継続していることも、結果的に会員のアイデンティの高まりとして有効に働くと考えます。いっぽう、新規会員の開拓としては、近年の状況を踏まえると、会員各位の声かけ活動が欠かせません。

つまり、会員増強（維持）の活動は、特定の企画を推進するだけでなく、会

全体の活動として如何に会の魅力を発信・実現してゆくかということと考えます。そのような観点から、本事業計画に特に会員増強という言葉はないかもしれませんが、実施している事業がすべて有効に実現すれば、魅力ある会活動を実現することとなり、ひいては会員満足に寄与し、結果的に会員の退会防止や、会員増加に寄与するものと考えます。

質問②：「魅力的な会とは何か」について、これまで、どのような議論がされたのでしょうか？  
(松嶋克廣代議員)

質問③：「魅力的な会」とは何か。

会員にアンケートを取って、何の目的で入会したのか？何で継続して入会しているのか、確認をして行事などに生かす。  
(島谷基信代議員)

回答：経理内容の厳しさに対処するための会員減防止（会員増加）として、退会会員を如何に減少させるかという検討のなかで、魅力ある会とは何かについて審議しました。

「魅力的な会」とは何かに関する、会員にアンケートの件、検討課題としたいと思います。

#### 【1-5】

質問：会員数の減少は、会員の高齢化に伴う減少が大半と思われませんが、その他の理由により、会員減少となった要因等については、どのようにして把握をされているのか。また、会員減少となった理由を会全体にもフィードバックしないと、一層の会員の減少に歯止めが掛からないと思われませんが、その対策については、理事会でどういった検討がなされているのでしょうか。

(三宅弘晃代議員)

回答：会員減少となった要因等について十分な把握できていません。もし具体的な意見を把握されているのでしたらお知らせ下さい。今後の対応については、前項に示した、会員アンケート等により対応することを検討したく思います。

#### 【1-6】

質問：理事会経費節減のため、電磁的手法（メーリングリスト）を試行しているとありますが、支部の会議運営にも参考になると思いますので、メリットや課題になっていることを、具体的にご教示ください。  
(藤岡博信代議員)

回答：電磁的手法（メール）で実施した経験では、メールでの電文は『より

簡潔な表現』となる傾向があり、発言内容のニュアンスや発言者の表情、雰囲気等が分らず、“YES か NO か”的な判断とならざるを得ない印象が強い。これらの経験から、『審議』については関係者が顔を合わせて行なうのがよいと思われ、『決定手段』には電磁的手法がよいと思われ。また、電磁的手法の会議を行なうに際しては、会議の責任者を決め、その責任者から、会議に開始・終了期日（とりまとめに時間を要するので、1日では終わらない）の明確化、出席者の定義方法、資料等送付方法とそのとりまとめ、紙媒体への出力・整理保管の担当者、議事録の作成方法等をきめ細かく示す必要があります。

### 【1-7】

**質 問：**配送料の値上げなどに加えて、2019年10月にも予定されている消費税率10%への引き上げなど、諸物価が高騰していく昨今ではありますが、会費6,400円は2017年11月の理事会での審議事項にも記載されている通り、値上げはせずに現状の6,400円を維持する方針で宜しいでしょうか？

(平石大貴代議員)

**回 答：**理事会の方針、現行会費6,400円の維持を前提に、収入源の確保、諸経費の見直し等、原資の創出のためにあらゆる可能性の追求をして参ります。会員皆様に多少のご不便をお掛けする可能性があるかもしれませんが、ご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

## —担当業務報告関係—

### 1. 総務／事務局

#### (1) 会員関係

### 【1-8】

**質 問①：**昨年度、連続しての会員減少が止まったとはいえ、会員数の漸減傾向に歯止めがかかったとは言えない。現在の会則では、中学生以上が正会員であり、年会費は成人会員と同じであるが、未成年の年少会員(中学生)の会費を減額してはどうか。一時的には収入減になるが、入会を容易にした方が長期的に有利なのではないか。

(斉藤 凌代議員)

**質 問②：**現在、中学生以上となっている参加資格を、小学校4年生まで引き下げることはできるか？かつてはジュニア会員制度もあったと聞いている。

引き下げることにより、会員の層を広げることも可能だと思われる。

(日下博文代議員)

**回答**： 会員増強施策の一つの手段だとは考えられますが、財政面及び会員年齢資格を下げた小学生高学年を対象としたジュニア会員などの検討と合わせ、今後の検討課題とさせていただきます。

### 【1-9】

**質問**： 会員の減少傾向に歯止めがかかり、賛助会員も増えており、本部の努力の賜物と思います。理事会資料によれば、新規入会者は 200 人前後になると思われますが、年齢層の傾向をご教示ください。持続的な会の活動のためには、若年層の入会が鍵を握るものと思われます。

また、退会者アンケートを実施していれば、退会理由について、どんな傾向がうかがえるでしょうか。  
(藤岡博信代議員)

**回答**： 会員の年齢構成につきましては、例年通りの資料を添付します。一昨年(2016年)、会費未納会員に「払込みのお願い」を送付した際、約 15%の会員から回答を得ました。が、退会理由で圧倒的に多かったのは、高齢、病気などによるものでした。

費用対効果を考えると、退会者へのアンケートは、再検討の必要性があると考えます。

### 【1-10】

**質問**： 正会員会費と支部費・研究会費を、一括納入に一本化する考えはないか。納入方法はシンプルにした方が、会員、本部事務局、支部・研究会それぞれにとって、利便性が高まると思われる。行事に出席しない会員については、会員証を確認する手段がなく、正会員会費の納入状況を本部事務局に問い合わせる必要があるが、支部・研究会からこのような問い合わせはどのくらいあるか。全支部・研究会で徹底されているか。  
(藤岡博信代議員)

**回答**： 現在、一括納入を利用されている研究会・支部は 14、その単価は、800 円から 6,000 円まであります。この利用会員は、1,320 名(2017 年度実績)で、会費納入についての、会員の利便性は確保できていると思います。これを廃止することは考えられません。

ご指摘の納入状況の研究会・支部への連絡ですが、機関誌「RAILFAN」(12月号)、Web で新年度会費納入依頼告知の後、12 月～4 月までは、14 研究会・支部事務局宛、各月末時点の収納月報で連絡しています。新年度が始まり、一か月経過の 5 月以降は、原則的には受付ませんが、実際には、払い込まれることがありますので、その都度、該当研究会・支部宛に個別連絡をしています。

## (2) 賛助会員関係

### 【1-11】

質問：賛助会員の増加も鉄道友の会運営に欠かせない事項ですが、現在 75 社にご加入頂いている状況です。現在の加入者数は、歴代記録で何番目くらいでしょうか。  
(三宅弘晃代議員)

回答：鉄道友の会創設以来の記録といえます。過去 10 年の記録では、2007 年（平成 19 年）から、62,62,64,69,73,72,69,71,72,71 社と続いてきました。詳しくは、「鉄道友の会 60 年のあゆみ」資料編をご覧ください。

### 【1-12】

質問①：過去に長年加入していた賛助会員が脱退しているケースもございますが、ある企業 K 社（具体的には関西電力株式会社）が数年前に脱退しております。その理由はこういったものでしょうか。

脱退前年、非営業期間中に本部が黒部峡谷鉄道の見学および車両撮影会（社員である私が役員に取り合ってその橋渡しを行いました）を実施しましたが、その翌年に脱退しております。私が耳にしているその理由は、ある一部の会員が黒部峡谷鉄道本社に見学が出来なかった苦情を申し入れるという前代未聞の事象があったようです。

また、行事当日に黒部峡谷鉄道側は、取締役社長・常務取締役・現場の長まで休日出勤を行なって当会の対応に当たり、事前にその旨を伝えたものの、当会の役員出席は、事業担当理事 1 名出席のみで非常に残念な対応でありました。ご担当されました事業担当理事も大変ご心労頂いたものと推察されます。

こういった事象が生じますと民鉄協会を通じて話が伝わる可能性もあり、当会の信頼失墜にもつながります。今後は、こういったことが二度と起きないようにご配慮をお願い致します。  
(三宅弘晃代議員)

質問②：2018 年度賛助会員様、多くの企業が友の会を支えて頂いていることに感謝しています。数年前まで関西電力様が賛助会員として名を連ねていましたが、本部行事をされた翌年からなくなっていました。なぜでしょうか。また退会された関西電力様はじめ各法人様の復帰要請の継続依頼はされているのでしょうか。ご教示頂きたい。  
(三増晃嗣代議員)

回答：

(状況報告)

黒部峡谷鉄道行事の参加役員は一人（小生ですが）であることを事業者へ事前

に連絡しております。

黒部峡谷鉄道行事開催前夜に須田会長講演会と懇親会を開催予定でした。そのお誘いも黒部峡谷鉄道様にしましたが、場所が富山駅近くであることで不参加とのご連絡をいただいております。現地の黒部では講演会会場やお店の確保が困難でした。

懇親会は、黒部峡谷鉄道様のご参加がないことなどにより中止としました。(行事としてではなく有志で開催)

ご質問者の三宅氏は、役員の参加数が少ないと言っているものと思われませんが、仕方ないと思います。

開催は2014年4月5日(土)～6日(日)。5日の晩には須田会長講演会を実施。

#### (回答)

本件では、会員が事業者に苦情を言うことが一番いけないことと思います。事業者は厚意で撮影会を開催していただいております。苦情は鉄道友の会へ言うべきです。その行為が実際にあったことかわかりませんが、そのことを知られた場合は、すぐに本部へ連絡いただきたかったと思います。お詫びをしなければなりません。その情報が滞ったことも残念です。

賛助会員を継続されない理由の因果関係はわかりませんが、基本的に事業者と本会はよい関係作りをしなければ、行事だけではなく多くのことが成り立ちません。ぜひともご協力をいただき、関係改善を図りたいと思います。

#### (3) 総会・代議員関係 (なし)

#### (4) 理事会関係

#### 【1-13】

質問：経費削減に努めていることは歓迎します。その「電磁的手法での開催」はどのような方法か、差し支えがなければご説明いただけないでしょうか。可能な範囲で結構です。支部の役員会でも、同様に経費節減や効率化を図るための参考になるのではないかと関心があります。(深見夏好代議員)

回答：2018年1月の理事会〔開催設定日1/21(日)〕を、経費節減の観点から理事会メールを使用して実施しました。【1-6】でも記したように、『審議』を行なうのは従来方法が良く、結論を出すのは『電磁的手法』が有効と思います。『電磁的手法』で会議を行なう場合、会議を仕切る担当者が、全体のスケジ

ルール、出欠者の決め方、議事進行の方法、結論の出し方等を確実に指示すること、その後各自から送られてきた回答や資料等を確実にとりまとめ（確認作業のための紙媒体への出力・保管を含む）管理したうえで、最終結論をとりまとめることが重要であると実感しました。

#### 【1-14】

**質 問：**支部としては、本部・理事会の動向も把握するよう努める必要もあるかと思いますが、理事会議事録の掲載が遅れがち傾向を見受けます。特に理事不在の支部に於いては、理事会議事録が唯一の本部・理事会の動向を把握する手段となります。情報の遅れにより行事計画・遂行の支障等、不都合な面も生じる懸念もあります。理事会開催後は早めに掲載し周知に努めて頂けないでしょうか。（原 英喜代議員）

**回 答：**理事会議事録は作成後、理事会の承認を受けて確定する必要があります。従来、次回の理事会が隔月開催のため公表が遅れましたが、今後理事会の「電磁的手法による開催」が軌道にのれば、その期間はかなり短縮が可能になる見込です。

## 2. 経 理

#### 【1-15】

**質 問：**年度の黒字が赤字の穴埋めになり、厳しい経理状況と判断します。累積赤字の解消の見通しについてお聞かせいただきたい。（松嶋克廣代議員）

**回 答：** ご認識のとおり、会員の減少により厳しい経理状況にあります。支出の削減や収入の確保により対応していますが、会費収入に依存する部分が大半であり、はっきりした見通しはないのが現状です。お知り合いの方への声掛け等、会員の増加にご協力をお願いいたします。

## 3. 事 業

#### 【1-16】

**質 問：**些細な指摘で大変失礼ですが、項目番号が「ブルーリボン賞・ローレル賞」は「(3)-1」、「島秀雄記念優秀著作賞」は(3)-2…というように、「(3)」～始まっています。(1)・(2)はどちらでしょうか？（深見夏好代議員）



**回答**：ご指摘ありがとうございます。校正ミスで、見出しの付番を間違えております。下記のように修正をお願いします。

3・事業の項

3-（1）ブルーリボン賞・ローレル賞（6ページ）

3-（2）島秀雄記念優秀著作賞（8ページ）

3-（3）行事（9ページ）

3-（1）ブルーリボン賞・ローレル賞

#### 【1-17】

**質問**：2018年度は「東日本旅客鉄道 E001 系」や「京阪電気鉄道 8550 形」がノミネートされているが、「小湊鉄道 DB4+か 101 ほか」はノミネートされなかった。両者の扱いの相違点を公にしないと顕彰の質を問われると思われるがいかがか。（北野隆雄代議員）

**回答**：選考委員会でノミネート車両を選定する際、10項目からなる採点基準で当該車種を採点した結果、ノミネート車両の基準点に達していなかったため、ノミネートいたしませんでした。なお、質問の対象車種は2015年に営業開始した車両で、2016年対象車種であることを付記いたします。

#### 【1-18】

**質問**：候補車両の標記について、系列は系、形式は形と定義し、統一したい。理由は、候補車両の範囲を明確にするためである。現状は、事業者使用の標記に迎合する場合（2018年の一例では西鉄9000形）と当会の意向を貫くケース（同、東京都320系）が混在し、曖昧な点が拭えない。事業者に配慮するならば、B賞・L賞選定時点で標記を変更すれば問題ないと捉えている。（坂戸宏太代議員）

**回答**：系(シリーズ)と形(タイプ)の区別は明確にするべきです。また選考委員会ではそのようにしています。しかし鉄道事業者特有の考えや広く一般にも知られている点等を考慮して候補車両(ノミネート車両)の形式表現を決定する場合もあることをご理解ください。

#### 【1-19】

**質問**：B L賞の規定・選定についての質問が相次いでおり毎度、ご丁寧な説明を頂き感謝いたします。当該年に登場した新型車両・改造車両についてノミネートの有無を問わず“B賞L賞候補車両に対する基準”の点数を、会員ページ

に掲載しては如何でしょうか。会員の理解が一層深まるかと思えます。  
「RFは鉄道事業者の目にも触れる為、対象外となった理由は記せない」との趣旨説明は理解しましたので、RF掲載までは求めません。（原 英喜代議員）

**回答**：B賞L賞候補車両に対する基準の点数を公開することは、会員の理解が深まることは確かと思えますが、会員ページに掲載した場合でも事業者の目に触れる可能性がありますので、従来通り採点は非公開といたします。

### 【1-20】

**質問①**：ブルーリボン賞・ローレル賞の投票率について、2017年は54・35%、2018年は53・89%であり、趣味の会としては低いと考えられます。投票率を上げる方策をお聞かせいただきたい。（松嶋克廣代議員）

**質問②**：会員特権のひとつとしてブルーリボン賞に投票できることがある。しかしながらその投票率は常に50パーセント前後で長年推移しており、対外的に胸を張れる状況とは言えない。会員自体も大した権利として捉えていないように思われるが、ならば何故会員が投票をしないのか、その理由を尋ねる等、原因を調査分析して投票率向上を目指すべきではないか。（斉藤 凌代議員）

**回答**：投票率を上げる方策として2017年にB賞L賞関係行事に優先的に参加できる旨明記し、2016年から2017年は投票率がアップした結果が出ています。

しかし、本年度は優先的に参加できるということを明記しませんでした。この優先参加権がどの程度投票率アップにつながっているか分かりませんが、投票率アップの方策のひとつかと思えますので、来年は実施を検討したいと思えます。また、投票をしていただいたにも関わらず、投票要件に満たない無効投票が少なからず毎年ありますので、WEB上で締切日・投票要件を掲載し、無効票を少なくするよう働きかけるのも一策かと考えています。

得票率がどの程度が満足できる率と言えるのかは議論があると思えますが、得票率の上昇を図るために現状の分析をすることは必要かと思えます。ただ、新たに調査をするには予算との関りがありますので、検討課題として考えたいと思えます。

### 【1-21】

**質問**：2017年も本年も、会員の皆様からいろいろな意見を耳にしています。中には、以前の「趣味的見地」と思えるようなものもありました。それでも、

そのような声も会員さんのニーズと受け止め、耳を傾けてゆく必要もあろうかと思っています。それと共に、BL賞のあり方などについて、会員の皆様にもご理解をいただけるように、理事会推薦代議員の一人として丁寧な説明に努めて行きたいと考えています。  
(深見夏好代議員)

**回答**：代議員皆様のご積極的ご協力を得なければ、一般会員が納得する会の運営は成り立ちません。六十余年の伝統を基に、次世代の姿を求めて、ともに前進しましょう。

### 3－(2) 島秀雄記念優秀著作賞 (なし)

### 3－(3) 行 事

#### 【1－22】

**質問**：2017年度の一般行事は12件開催されましたが共催行事が8件ありました。支部との協調体制により今後も拡大して行けば行事の増加につながり、会員にも喜ばれると考えます。又、1行事の参加者数が最大でも90名ですが、抽選による落選が多くなると参加意欲が減少しますので、可能な限り参加者枠の拡大に努めて頂き、参加希望者が極端に多くなりそうな行事は、複数回の開催も検討願います。  
(坪倉則孝代議員)

**回答**：ご意見・ご提案ありがとうございます。事業者・会員ともにメリットがあれば共催としていきたいと思えます。募集人数に関しては、どうしても事業者の意向が優先されます。開催不可よりも、少人数でも開催したいと考えております。また、複数回に分けて開催することも当然考えており、例えば、京成電鉄AE形撮影会や東京メトロ1000系撮影会がそれです。  
しかし、今後は鉄道施設での行事開催自体が厳しくなることが想定されます。

#### 【1－23】

**質問**：今回一般行事に共催支部・研究会名が記載されているが、「共催先」の支部・研究会から了解を得ていますか。  
少なくとも静岡支部については行事实施前の「共催」の連絡は一切もらっていません。(協力の要請はいただいて当日、会員有志が受付、場内整理にあたらせていただきました。)  
過去5年の議案書を拝見しましたが、共催者の記載はないので、ここで敢えて記載する必要はないかと存じます。  
(平野正範代議員)

**回答**：本質問は静岡鉄道ローレル賞の授賞式のことを指すと思われるので、BL 賞担当より回答いたします。確かに共催という言葉を書面、口頭でもお伝えしてないのは事実ですが、授賞式の打ち合わせに静岡支部より参加いただき、静岡鉄道殿役員との面談にも支部長に参加いただきました。当日の受付業務、撮影会で整理等多くのご協力をいただきましたので、担当理事として授賞式を共催という認識を持ち、共催という表現をいたしました。今後、このようなケースは事前に共催か否かを明確にしたいと思います。また、共催者の記載は必要ないとのご意見ですが、行事記録として残す意味で記載を継続したいと考えています。

#### 【1-24】

**質問**：一般行事の No.2 5/21 信楽高原鉄道 SKR-500 形撮影会について、同表の贈呈式関連を除いて支部・研究会と共催になっている事が多くあるが、この行事については、共催記載がない。本部より信楽高原鉄道に送付した文書の日付以降も支部に何の連絡もなく(支部長、事務局長も知らないと言証)開催されている(理事会のなかでも共有されていないのか)。開催日は、支部恒例の例会日であり意図的なのか懷疑してしまう。京都支部との共催行事では出来ないのか。京都支部も1週間前に同社に見学会を本部要請以前からご挨拶に伺い、2度目のご挨拶に伺ったときに『本部からこんな文書が届いていましたが、鉄道友の会は1つではないのですか』と言われ、とても恥ずかしい思いをした。ご担当様こんな事で本当に良いのか。本部開催行事では毎年同様の質問が相次ぐが改善が見られず、各支部同様の質問が続き、意見が顕在化しているのは失笑に値するのではないか。明確なルール作りをすべきではないか。当該支部代議員としてご教授頂きたい。  
(三増晃嗣代議員)

**回答**：2016年1月31日にSKR-400形撮影会を実施しました。その記事を機関誌 RAILFAN 2016.6.発行号に掲載しました。撮影会や取材時に担当者から次期新車が入った場合、写真を撮って欲しいとの要望をいただいております。そのようなことから考えますとご質問のような先方様の発言があったことが不思議です。

理事会では交渉中の行事報告を行っておりますので、支部長はご存知かと思われます。

共催に関しては、大規模な行事ではそうした方がよいかと思われますが、小規模なものは共催ではなくてもよろしいかと思えます。

それでも共催のメリットが事業者・会員双方にある場合は、是非ご協力をいただきたいと思います。

### 【1-25】

**質問：**本部主催行事で、地方で行う行事については、当該する地域の支部については、早めに知らせてほしい。本部から、支部事務局を介して、支部会員に行事の通知を行うのに、タイムラグがあるのは、支部会員が情報を知ることができずに困るので、この件については留意してほしい。（日下博文代議員）

**回答：**支部との共催行事については、できる限り早めに当該支部と連絡を取りながら、計画を進めています。本ご要望は直方車両センターでのB賞贈呈式関連の行事についてのことかと思いますが、諸般の事情で、当初の予定の10月21日に開催できなくなり、その後、JR九州との調整に時間を要しました。そのため、最終的な開催日がギリギリまで決まらなかった、ということがありました。

今後も、支部との共催行事については、早めに連絡を取りながら、進めていきたいと思っております。

### 【1-26】

**質問：**JRCフェスティバル行事について『フェスティバル！行事』ではあるが10人余程度の参加しかしないのはなぜか。全国の会員に均一に周知するツールRAILFANが活用すらできないのは準備不足なのか。Webだけを頼り、案内がキで対応のない基本と言うものがなく、まことに粗末な結果としか言わざるを得ない。また、本部各行事の定員に対して何名の募集があったのかどうか、記載することはやれるのか。ご教授頂きたい。（三増晃嗣代議員）

**回答：**以前にもご回答しておりますが、事業者の都合で募集時期が機関誌への掲載に間に合わないケースが多くございます。

それでも開催を見送るより実施した方がよいと考えております。募集→応募かと思われませんが、行事報告では応募者数を報告しております。掲載する媒体をお知らせいただければ検討いたします。

## 4. 組織

### 【1-27】

**質問：**“機構改革10年経過を踏まえての課題抽出”と記載されていましたが、抽出された課題を具体的に挙げて頂き、本部・支部・研究会の枠を超えて課題解決に向けたアクションを起こす必要があるのではないのでしょうか。

（原 英喜代議員）

**回答**： 10年を経過した機構改革を総括する目的で、メリット・デメリットの抽出を断片的に行っています。本部と支部・研究会との関係を整理して現況を定期総会後の情報交換会の場で報告させていただきます。各支部・研究会からの報告の中でも機構改革後の課題や良かった点等を出していただければと思います。

### 【1-28】

**質問**：HPの入会フォームは入会促進に有効だが、「以前会員であった方が再入会される場合」が一階層したの「入会・会費について」ページに掲載され、更に「必ず本部事務局まで問合せを」とあって障壁が高い。最初からフォームに「再入会」の選択肢を設けるか「再入会の方はこちら」とすれば、再入会しやすい。

新入会員を増やすことも大切だが、退会者を減らすことも重要、会費納入を失念しただけの「退会者」も多いのではないか。 (斉藤 凌代議員)

**回答**： 貴重なご意見ありがとうございます。再入会者の扱いを検討する際の参考といたします。

## 5. 編集

### 【1-29】

**質問①**：R.F増刊号は友の会ならでの貴重なデータであるが、全会員が必要としているか否かは疑問である。全員配布は必要としない会員も多いのではないか。増刊号は希望者のみの有料配布としては如何。店頭頒布も会費を払わずに友の会の成果だけを横取りされているようなもので、廃止、あるいは高額化を図るべきではないか。増刊号有料配布の場合、会員には最低価額で、店頭頒布は会費相当額を上乗せした高額にすれば入会者も増えるのでは。

(篠原 丞代議員)

**質問②**：現行の会費維持ならびに会費外収入を増やすためにも、機関誌「RAILFAN」の臨時増刊号の店頭販売の拡充や強化、または友の会本部での通信販売対応などの検討して頂きたいと思いますが、如何でしょうか？

(平石大貴代議員)

**回答**：機関誌の内容と頒布範囲については、2016年度第4・5回理事会で検討し、臨時増刊号の分離案もありましたが、当面は現行形態を踏襲する意見に収斂されました。

「RAILFAN」の外販は、会費外収入の確保および当会の活動内容の紹介と入会勧誘として重要な施策と認識しています。この観点からは拡充や強化が望ましいのですが、書籍・雑誌の流通は通常の商取引と異なる点が多く、発送・返品、委託・清算など管理面の負担も大きいため、現在の事務局の人員と作業能力では積極的な展開は難しい状況です。

販売価格については、当会の活動目的と機関誌の位置付けを税務当局に説明しており、営利目的と見做されないように留意する必要があります。

通信販売については、現在の事務局体制でも可能と思われるので、具体的に検討します。

### 【1-30】

**質問①**：会の支出の過半数を会報費が占めている現状を理事会として是と考えているのか、今のような立派な会報は不要で会費値下げを求める意見もかなりにあると思うがいかがか。  
(北野隆雄代議員)

**質問②**：R.F 発行経費削減にはご努力頂いているが、更なるスペックダウンを考えてもいいのではないか。具体的には、B5 を標準的な A4 サイズに変更しページ当たりの掲載量を増やしてその分減ページ、豪華な無線綴じを中綴じ製本に、安価なネット印刷所での印刷、減ページによる編集費の削減等々、印刷も同じページ数であれば B5 より A4 の方が安いこともあると聞く。ご検討頂きたい。  
(篠原 丞代議員)

**質問③**：収支計算書によりますと、会報印刷費、制作費にマイナスが生じているようです。普段行事に参加されない会員は、会報を受け取ることで会費をペイするもので、会報をなくすことはできません。今後も会報を継続的に発行するものと考えれば、収支が厳しい状況ではこの辺りを根本的に見直す必要があるのではないのでしょうか。具体的には、外販部数の削減もしくは外注先の契約先の変更等の再検討を実施しなければならないのではないのでしょうか。

また、外販によって収支を伸ばすためには、鉄道友の会ならではの編集記事を掲載する形式集など、他の鉄道趣味誌と一線を画した趣味愛好者が好む内容でなければならないと思います。

国鉄全盛期時代、鉄道事業に貢献した人物像を回顧するのも良いことですが、これからの世代の方にも関心を寄せて頂くには、つい最近まで活躍引退した私鉄・JR (旧国鉄) 車両の歴史を追うことも必要なのではないのでしょうか。

(三宅弘晃代議員)

**回答**：機関誌 (RAILFAN) については、2016 年度第 4・5 回理事会で、その役割や位置付け、掲載内容、制作総コスト、頒布範囲等、多方面から検討を

加え審議しました。その結果、当面は現行形態を踏襲することに意見が収斂されました。

機関誌は会の目的達成のために重要な位置を占めています。個人会員だけでなく賛助会員にも配られ、関連業界の方も目に触れる存在なので、一定の品位や品質を保つ必要があります。

インターネットやSNSが広く普及した昨今における紙媒体の役割変化に留意しつつ、様々なご意見・ご提案については、今後の機関誌のあり方を検討する際の参考とさせていただきます。

### 【1-31】

質問：機関誌「RAILFAN」の臨時増刊号(国鉄電車形式図 1960, 国鉄気動車形式図 1966 など)の執筆担当者としてお尋ね致します。

(1)2017年度に濱道代議員から【1-24(2)】の質問および理事側からの回答にもあるように、臨時増刊号の特集テーマが決まった段階などで、同特集に関連した写真募集などの告知は可能でしょうか？幅広い世代の方に形式図解説シリーズを更に理解して頂くためにも、今後は形式図が編集された時代背景や車両情勢を取り上げるにあたり、より多くの会員各位の皆さんからお写真のご提供などが必要であると考えているためです。

(2)形式図解説などを特集している臨時増刊号は会費外収入の増加などにも貢献をしていると聞いております。2016年度の事前質問【1-22】において、通常号と臨時増刊号の売り上げの差などから、臨時増刊号の発行回数を増やすべきではないかと質問致しましたが、その後、理事会では具体的な検討は行われませんでしたでしょうか？  
(平石大貴代議員)

回答：(1)臨時増刊号の形式集など網羅性が求められる題材や、貴重な写真の発掘が見込めるテーマについては、写真募集を行うことが望ましいと考えています。今後、実施できるように検討します。

(2)につきましては、前項【1-30】の回答をご参照ください。

### 【1-32】

質問：「RAILFAN」会員からの投稿記事が多数来ていると思われるが、編集担当者はどういう基準で投稿記事を採用しているのでしょうか？

(山岸房雄代議員)

回答：投稿記事の採否については、可能な限り掲載する方針ですが、紙媒体の特性上、誌面に限りがあるので、現在は記録性・資料性を主体に、趣味性や有



用性などを加味して決定しています。学会のような審査基準等は設けていません。

### 【1-33】

質問①：近年「RAILFAN」を見ても原稿募集の記事が見当たりません。原稿募集の記事も必要ではないでしょうか？また投稿規程はあるのでしょうか？

(山岸房雄代議員)

質問②：機関誌「RAILFAN」の投稿規定を年に一回（たとえば4月号）に載せてほしいのですが、検討していただけないでしょうか？

(松嶋克廣代議員)

回答：投稿要領は、いつでも参照可能なように鉄道友の会のウェブページとハンドブック（冊子）に掲載していますが、ご提言の内容についても実施するように検討します。

### 【1-34】

質問：「RAILFAN」の原稿料について、近年、所得税＋復興税が（元々の原稿料額から差引く形で）源泉徴収されるようになった。そのこと自体に異論はないが、外注している同紙の「編集費」は、税額を予め上乗せして、手取りが少なくなっているようだ。一般的にも、原稿料や出演料等は手取り額で取引されるので、統一すべきと思う。

(斉藤 凌代議員)

回答：編集費は、諾成契約として手取り金額を支払うため源泉徴収税＋復興特別税分を付加しています。原稿料については、総額の抑制もあり税額分の付加を見送っていましたが、ご意見について検討してみたいと思います。

## 6. 情報

### 【1-35】

質問：鉄道友の会ウェブサイトの改良をいただき、非常に見やすくフレキシブルに対応が可能になり感謝しております。

別紙の報告において掲載がありました。本来意図していない投稿であると考えます。例えば、本部行事において二次会を開催したといった案件や支部行事において二次会を開催したといった投稿が増える危惧がございます。投稿のガイドラインを作成いただき、健全な運用が行われるよう希望いたします。

(濱道輝章代議員)

※スペースの関係で画面表示省略：友の会ウェブサイトの「会員サイト」、「報告」2017.7.4 発信の、「2017年本部総会懇親会終了後の本部・支部有志による懇親会」を指す。

**回答**：鉄道友の会ウェブサイトをご活用いただきありがとうございます。会員ページの「報告」欄では、実施した行事や会合について記事を投稿するか否かを含めて各研究会・支部の自主性を尊重した運用をしています。しかし、本部・研究会・支部の行事ではなく、非公式に実施された有志による「二次会」等の報告は、公式サイトの性格上やはり適切とは言い難いと考えます。今後は投稿を担当する各研究会・支部の会務情報システム担当者に周知をはかりたいと思います。

### 【1-36】

**質問**：以前は定時総会で厳しい質問を浴びせられることもありましたが、本当に良く改善されてきたと思います。ご尽力に感謝いたします。(深見夏好代議員)

**回答**：鉄道友の会ウェブサイトをご活用くださりありがとうございます。各研究会・支部のご協力で会務情報の流通は以前より活発になりました。しかしながら、外部への発信強化や、会員サービス面ではもう一步踏み込んだ魅力的なコンテンツが必要と思われます。会員の皆様からもサイト運営のノウハウや素材のご提供、そしてマンパワー提供など、具体的なご提案・ご協力をお待ちしております。

7. 広報 (なし)

8. 海外 (なし)

## 【第2号議案関連についての質問】

### 【2-1】

**質問**：2017年度の収支計算書によると単年度収支は42万円のプラスだが、前期繰越金が-150万円あるため次期繰越金は-108万円となっています。2016年度も単年度は47万円のプラスで徐々に改善の動きが見えますが、まだまだ100万円を超えるマイナスであり、早期に繰越金をプラスにするための施策が検討されているのかお聞かせ願いたい。

会員の増加が最善の施策と考えますが、2018年度も会員増に向けての新たな施策があればお聞かせ頂きたい。  
(坪倉則孝代議員)

**回答**： 理事会費の削減等で極力支出を抑える予算を作成していますが、ご指摘のように会員増が最善の施策であります。お知り合いの方に声をかけるなど、会員増にご協力をお願いいたします。

### 【2-2】

**質問(1)**： 昨年度、「会報費のうち発送費は少なくとも前年並みの維持を」、と意見申し上げたところですが、やはり予算超過となり、会報費内の科目流用で乗り切っています。印刷・制作の部分のご尽力に感謝申し上げますとともに、代議員の指摘については真摯に向き合われるようお願いいたします。

**質問(2)**： 発送費について、2018年度は対2017年度300,000円の増、対2016年度150,000円の増となっております。昨今の運賃上昇を踏まえますと妥当な上げ幅と考えますが、万一それでも超過が生じた場合、財源確保の見通しはどのようにお考えでしょうか。  
(平野正範代議員)

**回答**： 業者の発送費値上げが相次ぎ、都度値上げの影響を少なくするため発送委託先を変更する等して対応いたしました。予算を約6万5千円程度超過しました。

本年度の予算につきましても、ある程度の値上げを見込んではいませんが極めて不透明な状況にあると認識しております。

支出削減や収入の確保に努めてまいりますが、現状は、会費の増減に依存する部分が多くなっています。

財源の確保には、これ以上の会員減少に歯止めをかけ、少しでも会員が増加することが大変有効と認識しております。

### 【2-3】

**質問**： 第1号-1-(3)-ウ)に関連して旅費規程運用の厳格化とありますが、過去に事業費に関する旅費支出で何か問題があったのでしょうか。2017年度は、30000円の支出となっております。事業推進等で必要とする旅費支出がこの他にも生じていると思われませんが、支出科目はどの科目に該当するのでしょうか。事業費の計上となるのでしょうか。  
(三宅弘晃代議員)

**回答**： 事業費は、当会が後援している「鉄道ファン/キャノン フォトコンテスト」等にかかるものです。現状、事業推進等での旅費は発生しておりません。

#### 【2-4】

質問：貸借対照表について、下記質問します。

資産の部

1. 定額貯金 ¥9,927,772 円 一千万円近くありますが、これの用途は？  
何か構想があるのですか？
2. 固定資産の内訳で、什器備品は原価償却費は計上しないのですか？  
また差し入れ保証金の目的と、どこの金融機関に預け入れてありますか？

負債の部

1. 別途積立金 ¥1,500,000 円 積立の目的は？ (沢野慎一代議員)

回答：

資産の部 1 基本金の全額ではありませんが、基本金に相当するものです。

資産の部 2 赤字決算のため、税理士とも相談のうえ減価償却はおこなっておりません。

差し入れ保証金は事務局賃貸にかかる保証金で、借主に預けてあります。

負債の部 過去に黒字の際に、将来の周年行事等の費用として確保しているものです。

#### 【2-5】

質問：貸借対照表を見たところでは、当座比率を除く財務状況の数値に問題なく、2016 年度決算で若干硬直の方向に傾いた流動比率の数値も、2017 年度では改善しているように判断できます。

また当座比率についても、2018 年度会費前受金を除外すれば理想値を示しております。引き続き、堅実な財務運営をお願いするものです。(平野正範代議員)

回答： ご意見のとおり、堅実な財務運営を行うよう努めてまいります。

### 【第3号議案関連についての質問】

(1) 社会的周知度の向上

#### 【3-1】

質問：近年、クラウドファンディングによって、鉄道車両の保存や維持に取り組む動きが盛んになり、有志が誰でも比較的容易にできるようになっています。

その中で、文化財化活動は、伝統と信頼のある当会だからこそできるものと言えらると思います。その強みを意識し、引き続き重点的に推進していただくことを期待します。  
(深見夏好代議員)

**回答**： 国重要文化財の指定そのものは、あくまでも文化庁の業務なので、鉄道友の会はそれを支援する「影武者的」な立場になります。このため、活動状況を WEB や会報で積極的にアピールすることを控えていますが、単なる趣味団体ではなく社会的にも貢献している組織であることを認めていただいた上で協力していますので、組織の強みを活かして引き続き活動を継続したいと思いません。  
(事業担当理事)

### 【3-2】

**質問**： 第1号議案(1)-ウでも結果が報告されておりますが、本部事務局に照会したところ「RAILFAN」の創刊号から、直近の発行分まで目次をデータ化し、原本は国立国会図書館に収蔵したので、そちらで閲覧して欲しいとのこと。そこで質問です。

1. 鉄道友の会では「RAILFAN」が、国立国会図書館でどのような形で収蔵されているか把握していますか？(データ化はされていない？)
2. 上記の原本を本部事務局の施設内で保存できないでしょうか？(データ化して、友の会 WEB で公開の可否は？)
3. 併せて本部事務局内で収蔵している図書の蔵書目録は作成する予定はありますか？
4. 全国の鉄道友の会会員が所有している貴重な鉄道史料が、今後散逸しないよう調査・リスト作成はされますか？(例：廃車体データベースのように)

(沢野慎一代議員)

**回答**：

1. 原本の収蔵で、記事のデータ化まではされてません。
2. つきましては、RAILFAN バックナンバーをデータ化してウェブなどの別媒体に再掲載する場合は、2次利用について著作権者の許諾が必要となります。しかし、760号分すべての著作権者を探し出して個別に許諾を得るのは容易ではなく、ウェブ公開は現状困難と考えます。
3. つきましては、現在事務局で「恒久保存」として取扱っているものは、下記の通りです。

- ①機関誌「RAILFAN」
- ②島秀雄記念優秀著作賞受賞作品
- ③鉄道関連会社から寄贈された社史・年史等
- ④各支部から提供された「支部報」
- ⑤寄贈を受けた会員の著作物

但し、①②以外は蔵書目録作りまでは行っていません。

4. につきましては、理想としては同感ですが、現実は無理だと思えます。事務局や博物館図書室では、保存や公開方法に制限や限界があり、図書や雑誌の複写サービスは、多くの場合認められていないと言った課題があります。国会図書館への納本趣旨ですが、法で定められていることに加え、無料で公開され、永久保存、複写も可能という形は他ではあり得ず、後世に永く残し活用するには最良の選択だと思えます。

(2) 会則が定める目的を実現するための方策の支援

### 【3-3】

質 問：「鉄道友の会ウェブサイトの更なる充実」に関して、本部・支部の行事案内は現時点では会員サイトのみでの公開であるが、一般公開イベント等会員限定ではない行事については、一般公開サイトに掲示できる様に改善をお願いしたい。

鉄道友の会の運営行事(パブリックな)をもっと広める事の大きな宣伝であると思います。(増田 昭代議員)

回 答：一般公開イベント等、会員限定ではない行事の一般公開サイトへの掲示は、会の広報活動として有効であると思えます。ただし、これまで会員限定ではない行事は余り多くはなかったと思えますので、その企画推進が望まれます。また、各研究会・支部主催の一般向け行事や展示会などの情報を一般公開サイトへ掲載したい場合は、各研究会・支部の会務情報システム担当者を経由して情報担当理事に依頼してください。

### 【3-4】

質 問：会員外、つまり一般向けの行事や、たとえばJRCフェスティバルの講演会に一般の鉄道ファンに出席を呼び掛け、地元の新聞テレビで募集案内を載せてもらうなどの考えはないのでしょうか？(松嶋克廣代議員)

回 答：有効なご意見として承りました。ただし、現今の会員向け行事は参加人数が制約されるケースがほとんどです。このような状況に鑑み、会員向け行事は、会員優先すべきと考えます。会員外向け(新会員獲得のための)行事の企画は、別途企画することは本部・支部を問わず検討する必要があると思えます。2017年度に新潟支部が実施した企画(RAILFAN 759号P-32参照)は参考になると思えます。

### 【3-5】

**質問①**：全国の会員を対象とした一連の複数行事の開催ですが、具体的なビジョンをお聞かせ下さい。

提案として、鉄道事業収入にプラスとなるような乗車会＋撮影会等を実施すれば、鉄道会社様もある程度は、受け入れて頂けるのではないかと思います。

具体的に申しますと、本部・支部では、様々な行事が企画されていますが、とくに本部行事においては受け入れ人数が少ない、受け入れ先のヘルメット・保安ベルトの数量が足りない等の問題があって、どうしても保安上の制限があり、仕方のないことなのですが、鉄道会社主催の有料乗車撮影行事では、ヘルメット着用不要の行事もありますので、こういった行事も参考に工夫をすれば、できるだけ参加人数を増やす手立てもあろうかと思われまますので、ご検討をお願い致します。

(三宅弘晃代議員)

**質問②**：「全国の会員を対象とした一連の複数行事の開催」について、“JRC フェスティバル”と解釈しますが、開催地などはどの様に選定されているのでしょうか。

早期段階から計画調整を図り、地元支部及び周辺支部との協力も得ながら、全国の会員へPRする必要があるかと思えます。参加者が少ないのも気になります。

(原 英喜代議員)

**質問③**：BL賞以外において

趣味者が興味を持つ車両などのコラボ企画などを考えて鉄道事業者及び一般趣味者に存在感を示す。

(島谷基信代議員)

**回答**：ご提案、ありがとうございます。

全国の会員を対象とした一連の複数行事は、主にフェスティバルという形で開催しております。新車撮影会などを中心に一連行事を組み立てております。乗車会＋撮影会は、過去にも実施しております。例えば伊豆急行クモハ 103 乗車・撮影会です。よりよい行事のご提案がございましたらぜひともお知らせください。

本部行事の募集人数に関しましては、事業者主催では警備員の配置などで多くの人数を募集することが可能かと思われまます。(ヘルメットだけではなく安全上の問題が大きい)

一方、趣味団体の申込は、安全確保が困難なことから近年とくに受けていただけなくなっております。開催不可より少人数でも開催できればと考えております。

これまで実施していない地域で、新車や引退等の話題となる車両、当会行事の設定に前向きに検討いただける鉄道会社等の情報を受けて検討しています。ご

意見のように、企画の推進には、早期段階から地元支部及び周辺支部との調整を図りながら、全国の会員への参加PRを行なう必要があると思います。

### 【3-6】

質問①：活動活性化のための本部と支部とのコミュニケーション強化とありますが、具体的な取り組み内容について御教示頂きたいと思います。併せて本部と支部・研究会の支部長・代表者、事務局、代議員と電磁的手法により意見提示と回答も含めて常時、連絡が取れる体制を構築することはできないでしょうか。  
(原 英喜代議員)

質問②：支部のみで、研究会とのコミュニケーションは不必要なのでしょうか？  
(松嶋克廣代議員)

回答：各支部間、各研究会間との相互コミュニケーション、連携強化こそが友の会活動活性化の前提になると思います。具体的取り組み内容については、関連行事等での関係者との意見交換等が主で、現時点では理事会やBL賞委員会でのメーリングシステム以外は構築ができていません。検討課題としたいと思います。

### (3) 活動基盤強化

### 【3-7】

質問：「会員増加を図ります。」とあるが、ア)～ウ)は抽象的な表現で、従来と変わらず目的達成は難しいと思う。

入会金から毎年200名ほど新規加入があるが、全会員数から計算してそれ以上の退会者がいる。

また、愛知・岐阜・三重三県でみると本部のみ会員が80名から100名いる。新規勧誘とともに、本部のみ会員に支部への加入を勧め、支部活動を経験してもらった方が退会者が減るのではないか。

支部からは本部会費と支部費を一括納入した会員情報はわかるが、本部のみ会員の状況はわからない。

住所から本部のみ会員の状況を当該支部へ連絡すれば、支部への加入を勧誘することも可能である。  
(野上基長代議員)

回答：都道府県別の会員情報は事務局で管理していますが、「個人情報保護法」の観点から、自動的には公表しておりません。しかし、ご指摘のように、支部から用途を明確にしての該当県別会員のデータ提供依頼については、現在も対



応しています。(事務局宛、用途内容をご記入の企画書で、ご連絡ください)  
ご指摘のような支部活動は、是非実行していただきたく、そのために必要な費用の一部を本部が支援する体制をとりましたので、ご利用ください。  
また、会員のみならず、一般の人を含めた行事開催も対象としていますので、企画段階でご相談ください。

### 【3-8】

**質問：**鉄道ビジュアル臨時増刊号「鉄道車両年鑑」が2017年から発行されなくなり、会員・非会員を問わず、惜しむ声を少なからず耳にしました。それに代わるものを当会で刊行できないでしょうか？例えば「それが欲しいから入会する」というように、会員増強の方策にもなり得るのではないかと思います。  
理事会にお願いするばかりでなく、我々会員にも自発的にできることはないかと考えています。  
(深見夏好代議員)

**回答：**「鉄道車両年鑑」の発行取り止めに際しては、当会の役員や会員からも惜しむ声と共に当会で何らかの支援や代行が出来ないものだろうかという意見が寄せられました。B賞・L賞にも関連しますので、当会での刊行について多方面から検討してみたいと思います。

### 【3-9】

**質問：**私は子供の頃、保育社カラーボックスやコロタン文庫などの鉄道書籍で、「鉄道友の会監修」や、著者紹介に「鉄道友の会会員」とかいてあるのを見て、「大きくなったら入会したい」と憧れたものです。それに対して、現在、非会員の子供たちを対象とした鉄道図書で、そのようなアピールがあまり多くないように思いますが、如何でしょうか？ 会員増加を図るために、ぜひご検討いただけましたら幸いです。  
(深見夏好代議員)

**回答：** 鉄道図書出版の業界で、子供たちを対象とした鉄道図書の企画が少なく、子供たちへのアピールが多くないことは同感です。ただし、1970年代半ばのコロタン文庫が発行された時代と現在とでは、ネット利用を含めて情報入手の状況が全く変わっています。このような状況のなかで、ご提案の企画の推進について検討したいと考えます。

### 【3-10】

**質問：** 寄附金制度について運営計画に一言も言及がないのは奇妙な感じがします。活動基盤強化の重要施策の一つではないでしょうか。また実際の制度の

運用において、申込書の送付に関する説明が申込書、HP上に見当たりません。持参、郵送、FAX等具体的な記述が必要と思います。（真鍋裕司代議員）

**回答**： 寄附金制度は本年4月から実施しました。運営計画にそのことを言及すべきとのご意見ですが、当会は政治団体ではないので、寄附制度の大々的PRを掲げることは好ましくないと考えます。徐々に会員を通して情報が広がり、協力していただくことが増えることを期待しています。あと、実際の制度の運用の件ですが、運用開始直後で十分な対応ができてないのは事実なので、ご意見を踏まえ対応したく思います。

## 【第4号議案関連についての質問】

### 【4-1】

**質問**： 会報印刷費と制作費が前年度に対し減額された予算案ですが、この理由をお聞かせいただきたい。（松嶋克廣代議員）

**回答**： 年間8冊発行（6回発送）を維持しつつも、発送費が昨今の情勢により大幅値上げとなるため、ページ数の見直し等により発行費用の抑制を図りました。

### 【4-2】

**質問**： 寄附金制度による収入を項目として独立させ、収入見込み額を記載すべきではないかと思えます。（真鍋裕司代議員）

**回答**： 本年度の決算時から項目を追加いたします。ご承知のように、寄付は強制するものでもありませんので、予算には計上しておりません。

### 【4-3】

**質問**： 増収策として現行の年度別会費制度を年間会費制度とし、入会月に関わらず年間会費を頂戴し、有効期間1年とすることを提案する。現行、年度途中の入会は月割りで減額されるため年度末での会員一人当たりの実質会費は本来6,400円のところが6,200円程度である。同時に再入会者の入会金免除も廃止すべき。年間会費継続者のみ免除とする。これにより継続会員でも納入月を遅らせ（一旦退会）年間会費削減を図っている会員の減少も図れる。（篠原 丞代議員）

**回答**：貴重なご意見ありがとうございます。（年度途中の入会者数の分析を行い、今後検討する際の参考といたします。）

#### 【4-4】

**質問**：会運営の経理面が年々増加して厳しいのは理解致しますが、そもそも歯止めを掛けるタイミングが遅かったのではないのでしょうか。旅費規程運用の厳格化、電磁的手法による理事会の試行等で削減化は当然のことながら必要ですが、会の適正な運営および会員増強のためにも、早急な対応を要望します。単に年会費をアップすれば、赤字額は目減りしますが、会員離れも起きるでしょうし、その要因が何であったのか、具体的に検証すべきと思われます。おそらくそういった事象はないと思われませんが、過去の実績に遡って不適切な支出（問題支出）の事実があるのであれば、返還対応を実施すべきです。

また、監査および理事会報告だけではなく、一般会員に対しても、今後は段階的に情報開示を行う必要性もあるのではないのでしょうか。

寄付金制度も新たに開始され、大変良い制度ではありますが、現在の収支赤字を解消しなければ、会の活動の正当性や妥当性を問われますし、ご寄付をされる方も納得して当会对し、ご寄付を賜ることができないのではないのでしょうか。  
(三宅弘晃代議員)

**回答**：支出の削減や収入の確保等で、単年度では若干ですが黒字を計上しております。さらに支出の削減や収入の確保等に努めますが、これ以上の会員減少に歯止めをかけ、少しでも会員が増加することで収支は改善すると認識しております。

是非、お知り合いの方に声をかけるなど会員増加にご協力をお願いいたします。

### 【第5号議案関連についての質問】

#### 【5-1】

**質問**：家族会員について、正会員が単身赴任し同一住所でないと家族会員の要件をなさないのですか？  
(松嶋克廣代議員)

**回答**：実態や運用に則し、会則及び家族会員規程に定められている同一居住地要件を見直す方向で検討します。

### 【5-2】

質 問：家族会員制度を大幅に見直し、所帯主が正会員でその家族を家族会員にし、中学生以下のお子様も家族会員でOKとし、各行事の参加については危険性など考案し可否の判断をしては如何でしょうか？ （松嶋克廣代議員）

回 答：現在でも中学生は家族会員の対象になっています。小学生以下のお子様も家族会員とすることは正会員の年齢要件との整合性もあり実施することは難しいと考えています。

### 【5-3】

質 問：次のように改めることを提案する。

「学校教育法第 1 条で定める中学校の 1 年生以上ないしはそれに相当する学校・学年以上の個人であって、別に定める金額の入会金および会費を納入したもの」

理由は、中学校に相当する学校が複数存在するからである。よって、学校教育法が改正された場合でも会則に極力影響しないような文言としておくことにより、会務負担を軽減することができる。

（ここまで 176 字）

（参考）

「それに相当する学校・学年」とは、

- 1)特別支援学校中学部 1 年生(旧養護学校からの流れを汲むもの)
- 2)中等教育学校 1 年生(1998 年の法改正で登場)
- 3)義務教育学校後期課程 1 年生(2015 年の法改正で登場)

などがある。なお、学校教育法第 1 条では、前掲各校は中学校と並列に扱われている。 （坂戸宏太代議員）

回 答：昨年の総会での平野代議員からのご意見に基づき、会則第 4 条の中の会員資格(年齢)の表現を見直し提案させていただきました。年齢で区切るとの意見もありましたが、過去から引き継ぎ慣れ親しんでいる「中学生以上」との表現に特殊な場合を括弧書きすることで対応しています。会則ではこの程度の分かり易い表現に留めるべきと考えています。

## 【特】 総会運営について

### 【特－１】

質 問：2017 年度総会では議長から、冒頭に「意見は後で質問のみとしたい」との発言があり、結果として意見を発言する場はなかった。理事会として会員の意見を聴くことの必要性はどう考えているのか （北野隆雄代議員）

回 答：発言の意図は、「総会審議では、議案の内容に直接関係のある“質問（意見）”に限定したい」との意味合いです。当該議案に関係があれば質問も意見と同等と考えます。以前の総会で、当該議案に直接関係のない意見等が出され審議時間に影響を与えたことがあった経験からこのお願いとなりました。現状の総会後には、希望もあって支部・研究会からの意見・報告を受ける時間を設けていますが、時間不足で一部が懇親会の場にずれ込む状況となっています。このため今回の総会では、新しい試みとして、講演会をなくし、その時間を支部・研究会からの意見・報告を受ける時間としました。支部・研究会以外から意見や報告を受ける時間を設けることについては今後の課題としたいと思います。

### 【特－２】

質 問：事前質問には総会直前に印刷物で回答されてくるが、中には質問者の意図とかけ離れていると思われるご回答も見受けられる。ご回答は担当理事様が作成され専務理事様が確認、理事会としてのご回答になっていると伺っているが、その前に質問者と担当理事様の間で質問と回答内容にずれがないか確認をされては如何。また回答者も理事会としての回答では責任の所在が希薄であり、やはり担当理事様名でのご回答が望ましい。（篠原 丞代議員）

回 答：質問者と理事会（担当理事）の間での質問と回答内容とのずれがないようすべきとのご意見に異議はありません。その回答書の作成ですが、皆さんからの質問をいただき、各担当に分けて回答作成、それを一つにまとめ内容を確認、訂補、印刷製本、発送というプロセスを短時間で行なう必要があります。今後はより効率的にすすめることを検討したいと思います。なお回答を、理事会ではなく担当理事名で行なうというご意見ですが、この回答が会以外にも開示されることを想定すると、会の回答という形をとる必要があると考えます。

### 【特－３】

総会の審議終了後の「支部・研究会の活動記録等の報告する時間」への提言

（議案書に対する質問ではありません。回答もなくて結構です）

1. この報告は、毎年のように北から順番で、北海道支部から始まり、大概どの支部も持ち時間を超過して、名古屋支部や阪神支部あたりで予定の終了時間が迫り、それより西や南の支部や各研究会にシワ寄せが行く…というのが常態化しています。今年は先に各研究会から始めて、続いて南は九州支部から…というように、順序を逆にしてはいかがでしょうか？

今後も順序を隔年で交互に入れ替えていただきたいと思います。

2. この報告で、支部エリア内の鉄道的话题に明け暮れている支部も残念ながら見受けられます。貴重な機会を活かして、支部会員を増やそうと積極的にアピールする支部もある中、それは非常に勿体なく、かつ失礼ではないでしょうか？  
そういう意欲の無い支部には、発表を自粛してもらうことも一案かと思います。

（深見夏好代議員）

**回答**：総会時間の配分につきましては、いろいろご提言をいただいております。本年度の総会で、この問題を解消する様時間配分をいたしますので、宜しくご協力ください。

以 上

事前質問回答書にあわせ、下記２点の資料を同封します。

- 添付資料：1 会員年齢構成表  
2 都道府県別会員数の推移  
（今年から、5月末現在の会員数を記載してみました）